

平成25年10月9日

総務文教常任委員会 会議録 調査及び審査内容
◇会議録

- 1 日 時 平成25年10月9日
開会 9時59分 閉会 11時32分
- 2 場 所 幕別町役場 5階会議室
- 3 出席者 6名
委員長 前川雅志
副委員長 田口廣之
委員 小川純文 乾邦廣 芳滝仁 中橋友子
- 4 説明員 総務部長 古川耕一 総務課長 菅野勇次 総務係長 山本充
こども課長 山岸伸雄 (ファイリングシステム導入検討プロジェクトチーム副部会長)
- 5 事務局 局長 野坂正美 課長 萬谷司 係長 佐々木慎司
- 6 調査及び審査事件 (1) 所管事務調査
総務部に関する事項 (ファイリングシステムについて)
(2) 付託された意見書提出要請の審査について
道州制導入に断固反対する意見書 (北海道町村議会議長会)
(3) その他
- 7 調査及び審査結果 別紙

委員長 前川 雅志

◇ 審 査 内 容

(9 : 59~11:17 所管事務調査)

- 委員長（前川雅志） それでは休憩前に引き続き、会議を開きたいと思います。
2番目の付託議案の審査についてであります。道州制導入に断固反対する意見書について審査をはじめたいと思います。
それぞれ目を通していただいたかと思いますが、ご意見などある方は発言を許します。
中橋委員。
- 委員（中橋友子） 私はこの意見書案について、賛同いたします。
書かれている内容といいますか、背景は、道州制につきましては議論が行われるようになりましてから相当年数が経過しているというふうに思います。日本全体を10に分けるのか、9つなのか、11なのか、その辺の姿が見えていませんけれども、大括りで州単位、道州単位で行政区域の区分を決めて事務に司ることなのでしょうけれども、いま言いましたように、どんな形になっていくというのが、ここにもありますが、具体的な形というのがまだ見えていないのです。そこで、「形の見えないまま進められるのは困ります」というのは同感をいたします。
さらに、「期限を区切った導入ありきの内容」。期限につきましては、ネットなんかで見ますと自民党の5年といった期限は消えたようではありますが、この時点ではそういう状況もありましたし、既に野党からはここに書かれているような「183国会に提出されている」という中身もありますので、具体的な形が分からないまま提出されてくることに対する不安というのは、当然のことだというふうに思います。
北海道の場合には、もともと北海道という一つの道制でありますから、そういう点では他の地域よりも見えやすい面はあるのかとも思いますけれども、基礎自治体が変わっていくのではないかと、予算の配分がどうなるのか、あるいは当然、財政的には都市部の方が力を持っているわけですから、配分の不公平が出てくるのではないかとということも含めまして、現時点で早急に進めていくということについては大きな不安があるということで、私はこの意見書の内容について賛同いたします。
- 委員長（前川雅志） はい。というご意見でありましたが、ほかにございませんか。
ただいま中橋委員からお話がありましたことについては、そのとおりだと私も思います。
ただ、この意見書につきましては、今回の法案に対する反対という意見書であれば、中身についても議論を尽くさないままの法案提出でありますから同じような気持ちであります。道州制そのものに対して反対するということでもあります。今後その道州制についてはさまざまな議論がある中で、そういった一定の方向性を出しながら進めていくべきだと思っているものですから、この意見書については賛同できないといふように感じております。
調べてみますと、全国町村議長会と、町村会は道州制そのものについて反対をしているということですが、知事会は今回の法案に対して基本的な考え方として意見を出して、そういったことを整理したうえで法案を成立させてほしいということでもあります。そういった道州制の中で、この国のあり方というものをもう少し考えていく必要があるかというふうに思っているところであります。乾委員。
- 委員（乾邦廣） いま前川委員長が説明したとおり、私も道州制に対しての反対はしておりません。前向きに、国の将来の形は道州制も含めた何かの形が必要ではないかと思

っております。

断固反対する意見書については、いまの現状の道州制の考え方、全然先も何も見えておりませんから、この状態ではいまずぐ導入するということには私も賛成はできません。

でも道州制に対する考え方、将来の国の形をどうするのかというのは、やはり道州制も含めて、この人口減少社会の中で、こういう道州制に対する考え方も必要ではないかと思っておりますので、私はもうちょっと調査研究しながら慎重に結論を出した方がいいのかと思っております。

- 委員長（前川雅志） ほかにありませんか。芳滝委員。
- 委員（芳滝仁） 委員長も中橋委員も、どちらにも賛同するのですけれども、そのとおりだと思います。

問題は、地方自治体がどうなっていくのかということが、その中で、絵も描かれていなければ議論もされていない。そういう中でぽっとこう議会に出されてきても、なかなか中身の入った議論にはならないのではないかという気がします。進め方自体が、ありきで進めていくので、それはちょっとよくないという気がします。

やはり地方分権の一つの形として示されていくのでしょうし、国自体が、いわゆる中央がどのような形の行革をしていくのかということもあるでしょうし、地方ばかり結局広域化して、簡素化して、効率化していくという形で、中央がどのようになっていくのかということも全然示されていない。中央の省庁がそのまま残っていくのかという話にもなったら、全くこれはまた逆の話になるわけでありませう。

だからそういう意味で危険性もあるだろうし、出されてきてすぐ採択、不採択という格好にはならない、大きな、根幹的な問題があるのではないか。

私はこの進め方については、非常によくないというふうな考え方、意見を持っております。

- 委員長（前川雅志） ほかにご意見ございませうか。小川委員。
- 委員（小川純文） いま本当にみなさんが言われるとおり、まだこれは中身が見えていないということでもありますので、断固反対ということにもこれまた難しいのか。かといって賛成ということにもならないという、本当に形が見えないということです。これはまだ国の方も、これはまた早急に次の方策というのも見えてくると思っておりますので、それに向けて調査研究をもう少し要した方がいいのではないか。まだ、そこまでの判断するまでに、内容的なものが示されていない段階にあるのではないかという気がしますので、もう少しこれについては調査研究ということで置いておいても問題がなく、もう少し中身が見れるのではないかという気もするのですけれども。
- 委員長（前川雅志） 小川委員と乾委員から、もう少し調査研究という話がありました。いずれにしても議決までとなりますと、12月の定例会での議決ということでもありますので、それまでもうしばらく時間もあるかと思っております。そういった中で、それぞれの各委員さんが調査研究をしていただいて、次の定例会までに結論が出るように進めさせていただきたいと思っておりますが、よろしいですか。

（はいの声あり）

- 委員長（前川雅志） それでは2番目の付託議案の審査につきましては、以上をもちまして閉じさせていただきたいと思っております。

※ このあと、道内先進地視察研修について打ち合わせを行った。

（11：32 閉会）